

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100078		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームあいかわ		
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野5番地1		
自己評価作成日	令和 2年 8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和 2年 9月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、行事やレクリエーション等、年間を通し利用者同士の交流を図れています。その為、小規模多機能型居宅介護事業所を利用されている方のグループホーム入居希望者も多く、馴染みの環境でスムーズに入居できています。また、向かいには消防署があり、避難訓練や救命講習会等で日頃からご指導、ご協力を頂ける環境です。コロナ禍で、地域の催し物や事業所の行事が中止になる中、入居者の方々に少しでも楽しんで生活して頂けるようレクリエーションや体操等にも取り組んでいます。今後は、状況に応じ徐々に行事を再開し、以前のように地域の方々との交流を図っていかれると思います。

ホーム入口で神輿や、子供達が引くねぶ流しが披露され、向いの教会の牧師がクリスマスにギターを持参し訪問したり、地域住民からの山菜や野菜の差し入れがあったり、中学校、小学校、幼稚園との交流もある。郵便局、市役所支所、消防、学校、幼稚園、駅、教会等々、地域とのつながりが非常に良好で、まさに地域のホームとして存在が認められている。感染症対応のため、行事や外出が従来通りに実施出来ない状況の下、夏祭りを「夕涼み会」と銘打って、ポップコーン、綿あめ、アイスクリームの提供や市販の打ち上げ花火を連発することで、利用者に大いに楽しんでもらったとのこと。年2回家族交流会を企画し、だまこ鍋を一緒に作る等、ホームとのコミュニケーション促進につなげている。苦情解決第三者委員が年一回相談日を設けており、この日を全家族に案内している。相談日当日は第三者委員が、利用者と個別に面談してくれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目が届くよう玄関正面に掲示し自分の行っている介護を振り返る機会を作った。理念以外にも毎月目標を決め日々取り組んでいる。	併設する小規模多機能型居宅介護事業所と共有の理念に加え、ホーム独自の介護理念を、誰からも目に付く玄関入口の壁に掲げている。年に一度は理念の見直しの必要性について話し合っているが、いずれも分かりやすく、且つ、覚えやすいという理由により、あえて当初の理念を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域の行事等が中止になっている。また、感染予防の為、現在は外部との交流を中止している。今後、状況に応じて再開していきたい。	毎年神輿がホーム入口に来て、軽トラックの荷台で太鼓を打ち鳴らしてくれたり、地域の子供達が引く、お盆のねぶ流しが訪問してくれたりし、地域にホームの存在が浸透している。地域住民からの山菜や野菜を沢山いただいている。向いの教会の牧師がクリスマスにギターを持参し演奏してくれたり、中学校、小学校、幼稚園との交流も微笑ましい。郵便局、市役所支所、消防、学校、幼稚園、駅、教会等々、地域とのつながりが非常に良好であり、まさに地域のホームとして存在している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	以前は集落サロンに出向き認知症についての勉強会を行ったり、全戸訪問を行い事業所のPRに努めているが、コロナの影響にて現在はできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し利用者の状況や行事の様子等を伝え意見を頂いている。外部評価についても報告し意見を頂いている。 ※3月、5月はコロナの影響で開催せず、文書にて報告している。	併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行われ、地域包括、民生委員、自治会長、家族が参加している。新型コロナウイルスの感染防止対策について詳細な報告説明がなされている。地域包括や他のホームの運営推進会議委員を兼務している出席者からのアドバイスを受け、ヒヤリ・ハット報告について議題として取り上げ、防止対策につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、助言、指導を頂いている。	合川総合窓口センター・センター長と地域包括支援センター職員が運営推進会議に毎回参加している。必要に応じ、本庁介護保険課や生活保護担当との連絡調整をし、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のマニュアルに沿い勉強会を行い、身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。	北秋田市社協共通の詳細にわたる身体拘束廃止マニュアルが整備され、3ヶ月に一度、廃止に向けた委員会が開催されている。対象となる利用者は開設以来皆無であり、委員会で事例を活用した研修を実施することで、身体拘束をしないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のマニュアルの他、高齢者虐待防止セミナー等の外部研修に参加している。職員で学ぶ機会を持ち実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が、事業所内で勉強会を行い制度の理解に努めている。また、個々の利用者の家族環境等を把握し、必要性の有無を相談できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、納得のうえ同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決第三者委員による相談日を実施し意見を聞く機会を設けた。ご意見箱を設置し、頂いた意見を掲示するようにしている。	家族からの「家で日常的に使用していた自動洗浄便座がホームに設置されていない。」との意見を受け、全トイレへの設置につながった経緯がある。苦情解決第三者委員が年一回相談日を設けており、全利用者宅へ案内している。当日は第三者委員が利用者と個別に面談してくれ、結果をホームに報告してる。年2回家族交流会を企画し、だまこ鍋を一緒に作る等々、ホームとのコミュニケーション促進につなげている。目安箱やご意見箱ではなく「声のポスト」との命名が印象的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案を話す機会がある他、年に1度個別面談を行い、出された意見をまとめ改善に努めている。また、毎月の運営会議でも意見や提案の機会がある。	「気付き&申し送りノート」には利用者に関する申し送りの他に、スタッフの気づきや意見・アイデアが記載され、全スタッフの記名や捺印が確認できた。12月には管理者との個別面談が実施されており、事前に定められた様式に記入することで、法人内の関係する上司の誰とでも面談し相談できる体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や毎月行っているミーティングで出た意見、要望を把握し働きやすい環境づくりに努めている。法人内では年1回職員登用試験を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て毎月内部研修を行っている。外部研修にも参加の機会を持ち、復命書にて回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と連絡調整会議を行い、意見交換している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の状態、意向を確認し不安等を受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族とも面接を行い、本人の状態、家族の要望を聴き、不安等を受け止めていけるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズに沿えるようコミュニケーションを図り、簡単な作業や食事の片付け等、出来る事を手伝って頂きながら過ごしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方のご家族には電話で日頃の様子を伝え、気軽に何でも話して頂けるよう努めている。また、毎月お便りを送付し、普段の様子を伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋、美容院、病院等、本人の行きつけの場所への支援を行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	入居以前からの地域の馴染みの床屋、美容院、病院等を利用継続している。予約ができるとうホームで送迎しており、本人をよく知っている関係でもあるため、用件終了の電話で迎えに行くことにしている。お盆には自宅外泊や墓参りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互い関心を持ち声を掛け合えるよう見守り、介入している。孤立したりトラブルにならないよう座席にも配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に相談できる関係を心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に出来る限り応えられるよう、普段から表情を観察したり、ゆっくり話しをするよう努めている。	介護サービス計画書の利用者家族の意向欄には、利用者や家族のありのままの言葉での希望や思いが確認できた。本人からの買い物要望に、ドライブがてら出かけ買い物を楽しんでいる。近隣から野菜や山菜をいただくと、調理方法を利用者に見せたり、テレビを見て、食べたいとの希望があれば外出に出かけることもある。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴を記入して頂いている。情報収集に努め、なるべく自宅と同じように過ごしていただけるよう心掛けている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、その人に合った無理のない過ごし方が出来るような支援に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時は、本人、家族に意向を確認している。利用者に担当を設け、モニタリングを行ったり毎月の会議で状況を確認し、意見を聞きながら作成している。	日常業務や、打ち合わせ等で詳細に利用者の状況を共有しており、担当スタッフを中心にモニタリングを実施している。家族の訪問時に本人も同席し、希望や思いを再確認し、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し、朝夕の申し送りや情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば地域の保育園、小学校、教会、民生委員等との交流等を行っているが、現在は外部との交流を中止している。今後、状況に応じて再開していければと考えている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から通院している医療機関を受診している。本人に代わり、現状を細かく伝え適切な医療が受けられるよう努めている。また、薬の変更時には薬剤師としっかり確認を行っている。	週に1~2回は薬剤師が薬を直接配達してくれる薬局をかかりつけとしており、気軽に相談しアドバイスを受けやすい関係にある。近隣の診療所と歯科医院が協力医院であり、予防注射等必要に応じ訪問も可能である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡が取れる体制の為、利用者の体調について気付いた事は、看護師に相談し指示を仰いでいる。必要に応じては受診をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を病棟看護師に確認したり、退院時は必要に応じカンファレンスに参加している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し同意を得ている。	「重度化した場合の対応に係る指針」が整備され、入居時にホームでできること及び関係者とチームを組み対応する内容を説明し、同意を得ている。看取り加算は算定できるものの、過去に看取りの実績はない。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受講し、館内にAEDを設置している。看護師とは24時間連絡を取れる体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方にも避難訓練に参加して頂き、意見交換を行っている。スプリンクラーを設置し、発電機を準備している。	道路向かい、まさに目と鼻の先に消防署分署が存在しており、叫べば聞こえる距離にある。いざという時は本署に通報するより直接駆けつけた方が速いとあって、非常に心強い。隣接の小規模多機能を含め計3名の夜間体制である。災害時には地域の協力委員が駆けつけ、避難場所で利用者の見守りを行う態勢が確立している。避難訓練には協力委員5名が参加している。定期的に発電機の点検と操作訓練も実施され、総合訓練時の消防署員からの具体的なアドバイスも確認できた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した言葉掛けに努めているが、感情的になる事がある為、毎月の会議等でも話題にし注意を促している。	感情的にならないようスタッフ同士声を掛け合ったり、必要に応じて交代するなど配慮している。毎年、人格尊重に関する研修を実施することで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応につなげている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話に耳を傾け、相槌やうなづき等、話しやすい状況をつくり、できる範囲で希望に沿えるよう努めている。また自己決定できるよう努めている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、画一的ではなく個別ケアできるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に鏡の前で身だしなみを整えている。また、個別に化粧、クリーム等で今までと同じ身だしなみができるよう支援している。行きつけの理美容院を利用できるようにも支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節を感じて頂けるよう献立を工夫している。山菜の皮むきや、食器の後片付け等を一緒に行っている。	ホーム敷地内のアカシアの花を天ぷらにしたり、アケビをほおぼったりすること。自然豊かな環境に位置し、地域住民からの山菜や野菜の差し入れが多く、メニューを変更し、季節感を大いに味わえる羨ましい地域性である。ファミリーレストランや道の駅に外出に出かけ丼物が人気。訪問した当日の昼食は品数が多く、手作りに力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量を提供し、食事量、水分量を毎日記録している。月末に体重測定を行い増減に注意している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員が介助し口腔内の清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声掛け、誘導を行い自立に向けた支援をしている。	24時間の状況が色分けやマークにより一目でわかる排泄チェック表を活用している。個々のコップの適量な容量を把握し、水分補給状態も数値化し記載されている。一人ひとりの排泄パターンを把握することで、その人なりの排泄の自立にむけた支援につなげている。排泄を促すために、毎朝、牛乳を提供している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、軽運動を取り入れたり毎朝、牛乳を提供し日中も水分補給に努めている。主治医からの服薬で調整している方もいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態や意思に合わせて、週3回以上入浴している。	入浴剤を活用し、色や香りを楽しんでもらっており、冬期には柚子の果実を浴槽に浮かべるとのこと。床暖とストーブを併用し、冬季間でも脱衣室は温かい。入浴を拒否される方には、「○○を手伝って欲しいけど」「○○をお願い」等々、個々により様々に工夫して誘うことでスムーズに入浴できるよう模索している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ休息、睡眠できるよう支援している。不穏時等は、ゆっくり話を傾聴し安心して休めるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、副作用が分かるようにファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や軽作業等、役割を持って頂くよう支援している。嗜好品は本人の希望に沿って提供している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は職員と一緒に買い物やドライブ、外出に出かける機会があったが、コロナの影響で外出や外食等、年間の行事計画で立てた予定も中止している。	近隣の市役所や郵便ポスト、秋田内陸線合川駅まで一緒に出掛けたり、周辺の散歩に出掛けたりし、季節を味わうことのできる恵まれた環境にある。敷地内に大きな枝垂れ桜があり、花見を楽しむこともある。ドライブがてら他の場所の桜を見に行くこともある。自治会主催の秋祭り等、地域行事には利用者を連れ立って参加している。感染症対応のため、行事や外出が従来通りに実施出来ない状況にあるが、盛大な夏祭りを「夕涼み会」と銘打って、ホームなりに最大限の工夫をして、ポップコーン、綿あめ、アイスクリームの提供や市販の打ち上げ花火を連発することで、利用者に大いに楽しんでもらったという話を聞くことができた。	感染症対応で多くの制限がある中、今後共利用者のストレス軽減のため、ホームなりの工夫を継続するよう期待します。
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設側で管理、毎月収支報告している。本人や家族の希望で少額を自己管理している方もいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも気軽に電話等が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除や消毒を行い気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。観葉植物を置き、季節に合わせた手作りのカレンダーを貼っている。	スタッフが持参した季節の花を、利用者が生けてくれており、訪問当日もダリアが数か所に飾られていた。食堂には数種の観葉植物が配置されている。清掃員を1名新たに配置し、清掃の他、感染防止対策の徹底に取り組んでいる。気になる臭い等は一切感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳のスペースがあり、それぞれの過ごし方に合わせた居場所作りを心掛けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた慣れた物を持ってきて頂いている。家族や思い出の写真を居室に貼っている方もいる。	ご主人や孫、ひ孫の写真や敬老会と誕生日に贈られたスタッフからのメッセージが、各居室の壁に飾られている。各居室は清潔で明るい印象である。遊戯を披露しに訪問した幼稚園児からのプレゼントが微笑ましく飾られていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないよう心掛け、必要な方は居室の入り口に名前を貼り混乱を防いでいる。		